



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第2029号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 ブケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 鈴木 郁夫 幹事 前田 房江



広重版画より 三島 朝霧

第2092回例会

2015.10.22晴
於:米山記念館

司 会

登崎久夫君

ロータリーソング

「奉仕の理想」
指揮 平出利之君

会長挨拶

会長 鈴木郁夫君

今日はせせらぎ三島ロータリークラブから、山本良一ガバナー補佐、事務局の土屋巧会員がおいでになっています。このあとでご挨拶をさせていただきます。

また私のあいさつの前に大変悲しいお知らせをいたします。当クラブと苗栗RCとの交流に多大な貢献をしていただきました、苗栗RCのゴルフさんがお亡くなりになりました。つつしんでお悔やみを申し上げます。

さてこの間の日曜日に見晴フェスティバルがありました。大変好天にも恵まれて、現地で例会を行った後、フェスティバルに参加して無事終えることができました。豚汁、焼き鳥の準備など、ご協力お手伝いいただきました、ミセス会の奥様方、会員の皆様、石井委員長をはじめとする社会奉仕委員会の皆様、また昨年に引き続き今回も甘酒を提供していただいた、伊豆フェルメンテ宇田川会員と社員の皆様、にあらためてお礼を申し上げます。

さて10月は米山月間です。この月は、米山奨学事業の意義を深く認識し、また考える機会のひとつとして、各クラブでプログラムを組むということになっており、1983年に制定されました。創立者米山梅吉の遺志をついで、東京RCが、1952年サンフランシスコ講和条約調印の翌年に創設した「米山基金」が、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年、文部省の許可を得て財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。人と人との交流が平和な世界の基礎を作るというフルブライト奨学金制度をお手本として作られました。国際間の人的交流を深め、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために平和な日本を肌で感じてもらい、国際親善と世界平和に寄与したいという当時の

ロータリアンたちの強い願いが感じられます。また日本のロータリー独自の制度として「世話クラブとカウンセラー制度」があります。奨学生一人ひとりに地域のロータリークラブが世話クラブとなり、そのクラブの会員がカウンセラーとなって、奨学生の日常の相談役となります。奨学生はクラブの例会や、地域の奉仕活動、ロータリアンとの交流を通じて、より深く日本を理解して、ロータリーが求める平和の心を学びます。今日は米山奨学生の朴(ばく)スンジンさんが、長泉RCのカウンセラーの渡辺富夫(ひさお)会員と一緒においでになっています。朴(ばく)さんには後ほど卓話をお願いしています。よろしく願いいたします。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 朴 星辰さん(米山奨学生)
ビジター 山本良一ガバナー補佐(せせらぎ三島RC)
土屋巧ガバナー補佐事務局()
渡辺富夫(長泉RC)

出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	33/44	75.00%	37/44	84.10%
今回	31/42	73.81%	会員総数	49名

欠席者 石井(良)君、勝間田君、窪田君、坂本君、千葉君、橋本君、藤江君、古川君、森崎君、矢岸君、米山君

2015～2016年度
国際ロータリー会長
K.R.ラビンドラン

世界へのプレゼントになろう

スマイルボックス

- ◆長泉RC 渡邊君、本日は移動例会で米山梅吉記念館を使っていただきありがとうございます。また米山奨学生朴星辰君の卓話時間をいただきましてありがとうございます。
- ◆石井(彰)君、スーツの上着を忘れました。すみません。
- ◆室伏君、久しぶりです。

ガバナー補佐挨拶

静岡第2分区ガバナー補佐
山本良一君

野口英一ガバナー年度も早や4か月目に入りました、公式行事のガバナー公式訪問はさる8月19日(水)三島・伊豆中央・三島西・せせらぎ三島の4クラブ合同例会をブケ東海三島にて、8月27日(木)には 御殿場・裾野・長泉クラブの3クラブ合同例会として御殿場名鉄菜館にて行われました。皆様のご協力により盛大に開催することができました。

ガバナー補佐の役割はガバナー方針の伝達と各クラブの状況をガバナーに報告すると同時に目標に対して助力する、となっております、今年度の地区目標につきましてはいかがでしょうか。クラブの10年後を考えた時やはり会員増強が必要不可欠であります。会員増強から国際大会への参加まで10項目の目標が掲げられています、年度後半に向け目標達成をめざし活動をいたしましょう。

今年度の地区大会は甲府にて開催され11月6日(金)、7日(土)の2日間の開催、二日目の静岡第2分区の分区屋台は「伊豆長岡温泉まんじゅう」です、現在「せいろ」から湯気の出る装置を作成中です、当日をお楽しみにしてください、11分区の屋台がそれぞれの地域を代表するお土産を用意しております。

年度後半、来年となりますがIM開催のお知らせです、せせらぎ三島RCの担当として2016年2月20日(土)ブケ東海三島にて開催予定、矢岸実行委員長をはじめ委員が準備を進めています。

国際ロータリー年次大会(ソウル大会)につきましては2016年5月28日～6月1日、本会議は5月29日ですが野口ガバナーは当2620地区より250名の参加を呼び掛けています。

年度も後半に入ります、地区目標、クラブ目標に向け鈴木会長のもと、会員皆様のご活躍を願います、本日はありがとうございました。

卓話

お箸について

米山奨学生 朴星辰さん

こんにちは、日本大学 国際関係学部 国際総合政策学科 バク ソンジンと申します。

今日の卓話ではアジア諸国の一つの特徴である、お箸について話をさせていただきました。お箸を使用する代表的な国は中国、日本、韓国です。お箸を始めて使った国は中国であり、その歴史は5千年に至り、日本と韓国の箸も中国から伝わってきたものです。中国の箸の特徴は、日本と韓国に比べて長いことです。その理由は大家族であり、遠くまでとどけるため、揚げ物をよく食べる食文化により、箸の先が太く木でつくられた箸が多いです。次は日本のお箸、色豊かなスタイルが特徴。中国より短く、韓国より長い。魚をよく食べ、骨をとるため、先が細くなってきた。麺もよく食べるのでお箸に刻みがあります。韓国のお箸はステンレススチールで作られたものが多いです。昔、王様が銀のお箸を使用したはその理由は、食べ物に毒が添加されていると銀の色が変化するためであります。韓国はキムチなどの野菜をよく食べるため、平らになったお箸を使います。隣国でもあり、昔から交流も活発に行われたが、異なる文化。グローバル化され、世界はどんどん近くなっています。それに伴い、様々な問題もおきる。だが、私たちは世界平和のためにも、異なる文化を尊重し、理解し合うことが何よりも大事だということを常に考えなければいけません。



幹事報告

- ①本日はガバナー補佐と事務局が訪問されております。
- ②米山奨学生の朴星辰さんをお迎えしております。後程、卓話をお願いします。
- ③来週10月29日(木)は特別休会です。
- ④2018年～19年度のガバナーのお知らせが来ました。大月ロータリークラブ会員星野喜忠様の指名を決定したという事です。
- ⑤苗粟の中学生が1月28日(木)派遣されて来ますが、歓迎会をこの日にしたいと思いますので、例会場例会時間の変更を致します。

(週報担当:遠藤真道)